

第48回VE全国大会

日本VE協会会長開会挨拶

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会
会長

近藤 史朗



皆様おはようございます。会長の近藤でございます。本日はこのように多くの方々にご参加をいただき、48回目となるVE全国大会をかくも盛大に開催できまことを本当に嬉しく思っております。ありがとうございます。このように多くの方々からVEに関心を寄せていただき、会場まで足を運んでくださるということは、VEに対する期待の表れであり、身の引き締まる思いでございます。高い所からでございますけれども、ご参加いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

おかげさまで、今回も全国各地から参加者が集まってきました。2日間でのべ800名という参加者が見込まれているようでございます。お忙しい中、本当にありがとうございます。

また、今回も海外から多くのご参加をいただいております。アメリカ、インド、中国、韓国、タイ、メキシコ、ポルトガルの7ヶ国からお越しいただいております。皆様、はるばる海外からお越しの方々を拍手でお迎えください。(拍手)ありがとうございます。

また、本日、栄えある「マイルズ賞」ならびに「VE活動優秀賞」、「普及功労賞」を受賞される皆様、誠におめでとうございます。VEの実践・活用、そして普及にご尽力いただいておりますことに感謝申し上げますとともに、心よりお慶び申し上げます。

そして、本大会の開催にあたり、ご後援いただきました各団体の皆様、企画・運営にあたりご支援、ご協力いただきました多くの皆様方にも、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、今回の大会テーマは「NEXT VALUE DIRECTION」となっております。後ほど、牧野実行委員長からご紹介があると思っておりますけれども、今回は協会創立50周年という節目の年でございます。

「次の50年」を考えるきっかけにしたいという思いが込められております。

牧野さんを始めとする関係者の皆さんがアイデアを出し合い、『参加して良かった』『手伝って良かった』と思っただけのような大会を目指し、およそ半年間の年月をかけて企画を練り上げ、今日まで熱心に準備を進めてくださいました。

特に今回は、適用対象の広がりを前面に出すとともに、私が提唱しております「VEの原点回帰」あるいは「マネージメントプロセスの改革」、「VE的経営の実践」についても企画に盛り込んでくださったと聞いております。

示唆に富んだ講演のほか、自社の活動にも応用いただくために実践事例や研究論文などで、今回も多彩なプログラムが組まれてございます。それぞれの職場で活かせる「ヒント」や「気付き」を数多く得られるものと思います。

VEに関して、若干、私の考えを申し上げたいと思います。VE思考というのは、イノベーション、創造手法そのものと私は理解しております。例えば、演繹的な思考の方というのは、なかなかイノベーターになりえないという訳ですけれども、演繹的な思考というのは、理論を積み上げていく、前提を積み上げていく、「だから～である」という思考パターンで、こういう方はなかなかイノベーションを積み上げられない。どこかで止まってしまう。確定した理論でないと結論を導けないという方なんです。ただ、こういう方は会社にとっては必要な訳ですね。帰納的な考え方をする人、例えば、事実を積み上げて未来を推論していくという考え方のできる方というのは、新しい価値を創っていく、ブレインストーミングなんか

でそういうことをたくさんやるのですが、そうやって推論をして未来というものをある程度決めて、それに対して新しい価値の箱を創っていくという考え方がまさにVE的思考そのものだと思うのですが、イノベーション、創造ですね。こういう人達だけで会社が成り立っている訳ではなくて、一概に帰納的な考え方の人だけが集まったからいい会社だという訳ではないのですが、そういうことだと思います。

ただ、一つ注意しなければいけないのは、演繹的な思考しかできない人というのは、いずれにせよ、帰納的な思考パターンの人達を殺しにいくんですね。そういう癖があるので、この人達は「こうでなければならない」という考え方をしますから、それだけは避けるように、特に管理職の方は注意された方がいいのではないかと思います。そういう事例はもう世の中に枚挙に暇がないですね。

例えば、少し時間をいただいて話をしますが、私はセキュリティの関係で、毎朝、車で送り迎えをされているのですけれども、セキュリティの関係でなぜ毎日送り迎えしなければいけないかということと、もう一つは、例えば、私の知っている方は、ドライバーさんが3人ついて1日の仕事をしなければいけない。なんでドライバーさんが3人もいないと、その人の一日の行動をサポートできないかということ、会社の社用車を毎日、ドライバーさんが朝3時頃に出勤して車をとって、そして迎えに行き、夜はお酒を飲んだりして遅い11時頃になっても、必ず車を銀座のオフィスに返すということをやって、3人の人が本当に体を壊すくらい忙しい。

なんでこんなことになったかということなんです。それは、社用車を一回、会社に返さなければいけないというルールがあり、そのルールを、『こんなバカなルールを止めなさい』と誰も言わない。こんなバカなことをやっていたら効率が悪くて仕方ないではないかということに至らない。ルールだから守らなければいけないことはいっぱいあるのですが、でも、これからの未来というのは、そういった非効率でしかもエネルギーをたくさん使いまくるような世の中で決められた様々なルールがあると思うのですが、そういうムダなルールを、『こんなムダなこと、こんなムダなこと』

と言って、一つひとつ打ち破っていくことをしていったら、新しい未来を創っていくという考え方をしていけないといけません。

マネジメントの中でも、そういうことができないか、あるいは商品について『ここは変だよな』という発想をして創っていかないといけない。それがイノベーションの原点だと思うのですけれども、VEの中でもまったく同じ発想をしたいと思います。そういう意味でVEというのは、これからの未来、これからの日本の50年とかの未来を決めていく上でも、日本自身の構造改革をするという上でも大変大きな役割を果たすのではないかと思います。VEの原点回帰という意味でお話している訳ですけれども、そういうことに関わるようなお話が今回聞けるといいのではないかと思います。

本大会で得られた出会いとか今後の推進活動とか、そういうものについてもこれからの原動力となっていただければ、本当に嬉しいと思っております。

今回も盛りだくさんのプログラムになってございます。ご参加の皆様と運営に携わる皆様が一体となって、熱気のある、実りのある大会にしていきたいというふうに思います。

最後に、今日、ご参加の皆様、そしてご参加の皆様のお友達の知恵も含めて、VE協会に企業としての参加を是非図っていただけるように、ご紹介いただければと思います。是非、たくさんの方のご参加を望んでおります。そして、新しい方向を皆さんと一緒に創っていきたく思っております。2日間、よろしく申し上げます。(拍手)

